

平成26年度スーパーグローバルハイスクール構想の概要

指定期間	ふりがな	がっこうほうじんかんさいだいがく かんさいだいがくこうとうぶ				②所在都道府県	大阪府	
26～30	①学校名	学校法人関西大学 関西大学高等部						
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模		
	1年	2年	3年	4年	計	1学級定員36名、生徒総数360名定員。平成25年度より1学級増の4学級で展開。2・3年生は1学年3学級。		
安全科学科	146	120	131		397			
		(平成26年度入学生より実施)						
⑥研究開発構想名	持続可能な地球環境の構築に対するイノベーターの育成							
⑦研究開発の概要	3年間の全教育課程において「持続可能な地球環境についての研究」という大テーマを設定し、ゼミに分かれて課題研究を進める。まず、地球規模における日本の現状を認識し、さらに探究型学習を進め、関連授業や異文化体験を関連づけて思考を深め、視野を広げる。自己のアイデンティティを活かしたトピックをたて、人的ネットワークを活用して得た専門的な知識を組み入れながら、問題解決に向けた課題研究を構築させる。							
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	<p>(1) 目的・目標</p> <p>目的①地球規模の諸問題に対する多面的認識と問題解決への視野の錬成</p> <p>②異文化への洞察力と相対的な世界観の涵養</p> <p>③文化の壁を乗り越える精神力と問題解決に向けた実践力をもった、しなやかで強い「個」の育成</p> <p>④国際的視野を背景にしたアイデンティティの確立と専門性を高める教育プログラムの構築</p> <p>目標①地球規模の諸問題に対して探究を通して多面的な認識を獲得するために、総合的な学習の時間および学校設定科目の内容を再編する。</p> <p>②探究を経て問題解決のための方略を日本語および英語で提案するなど、自己の考えを主張する場を提供する。</p> <p>③多様な異文化交流体験の中で、さまざまな立場から地球規模の諸問題について討議し、日本の立場をグローバル社会の中で相対化する機会を提供する。</p> <p>④試行錯誤を厭わず、容易に答えの見つからない問いにも立ち向かおうとする姿勢を身に付けさせるため、重層的な探究活動と実体験をカリキュラム化する。</p> <p>⑤上記の基盤となる高度な語学力およびコミュニケーション力に焦点をあてて、語学および学校設定科目の内容を改変する。</p> <p>⑥文理バランスよく学習する中で学習の基盤を確立し、自己の「強み」に気付かせアイデンティティを確立するために全教科の内容を工夫し、総合的なカリキュラムを構築する。</p> <p>⑦外部機関との連携により、各自のアイデンティティを活かし専門性を高める授業と人的ネットワークを構築する。</p> <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <p>現状は、地球規模の諸問題に言及した取組になっていないので、「国際問題」を扱った研究は全体の4分の1に過ぎない。教育内容や従来からある探究学習についても充実を図りたい。研究テーマを絞り込むことで取組に変化が起き、教員および生徒の意識が変容すると考える。</p> <p>(3) 成果の普及</p> <p>研究大会、研究発表会、卒業研究発表会、卒業研究抄録集の発行、英文ホームページ</p>						

<p style="text-align: center;">⑧ -2 課題研究</p>	<p><b>(1) 課題研究内容</b>        大テーマ「持続可能な地球環境についての研究」のもと、ゼミに分かれ、専門的な外部講師の招聘との兼ね合いで以下の中から研究領域を選び、テーマを絞り、課題研究を行う。  <input type="checkbox"/> 社会系…産業、政治、経済、法律        例) フェアトレードを推奨して生産者の生活向上につなげるべきである。        例) マンガをビジネスモデルにするためにプロジェクトを立ち上げるべきである。  <input type="checkbox"/> 人間系…高度情報化社会、国際協力（貢献）、文化、歴史、語学        例) 国際摩擦解消のために日本文化のスキーマを発信すべきである。  <input type="checkbox"/> 自然系…エネルギー、環境、生物        例) 未来エネルギーとして太陽光エネルギーを発展途上国で事業展開するべきである。  <input type="checkbox"/> 安全系…健康、災害・事故、街づくり、危機管理        例) 安心安全で、高品質な日本ブランドの食品を輸出して食の安全を図るべきである。</p> <p><b>(2) 実施方法・検証評価</b>        『安全基礎』と『卒業研究』（ともに「総合的学習の時間」）、体験やその準備に当てる『安全学探究Ⅰ』『安全学探究Ⅱ』及び3年次の「課題研究」は課外（8時間目）や休業期間及び行事として集中履修となる。        知識・技能や研究技法を並行して学び、外部の専門家の講演や・特別講義を受けた後、外部の専門家の個人指導の下、研究テーマを設定し、課題研究を進める。外部の専門家には、個人指導に関わっていただくだけでなく、研究発表会などの講評も依頼し、フィードバック学習にも力を入れる。評価の対象は、研究の着眼点や手法などの内的過程やプレゼンテーション、ディベート、中間報告会など研究過程及び単元レポート・e-ポートフォリオ・卒業論文とし、生徒の自己評価や相互評価、専門家や本校教員の評価を多角的に盛り込む。</p> <p><b>(3) 必要となる教育課程の特例等</b></p>
<p style="text-align: center;">⑧ -3 上記以外</p>	<p><b>(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価</b>        うわべだけのグローバル化にならないように、「日本社会に生きる人間としてのアイデンティティ」についてももしっかり取り組む。入学当初の宿泊研修に始まり、様々な場面で経験を積み、「リーダーの育成」と「コミュニケーション力」の強化を図りたい。この活動で得られる「受けとる力」「考える力」「判断する力」「表現する力」は、汎用性が高く、社会生活のあらゆる場面で有効である。研究活動に限らず、全教科への取組姿勢、学校行事や学級運営の参画意識などで総合判断する。</p> <p><b>(2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等</b></p> <p><b>(3) グローバル・リーダー育成に関する環境整備、教育課程課外の取組内容・実施方法</b>        ドイツ人短期留学生の受入〔日独文化のワークショップ〕        イギリス夏期研修（希望者）〔歴史的に趣のあるコッツウォルズにて語学研修〕        アメリカの提携先（学校、機関等）の開拓（教員）〔取組を深めるための環境整備〕        シンガポール Hwa Chong Institution 校の高校生の受入        〔「エネルギー」「資源」をテーマにセッション（英語ディベート）の実施〕        オーストラリア政府派遣日本語教員の受入（関西大学国際部との連携）        〔英語によるプレゼンテーションを実施〕</p> <p><b>(4) 幹事校としての取組（該当する場合のみ記入）</b></p>
<p style="text-align: center;">⑨その他 特記事項</p>	<p>関西大学中等部・高等部と同時に開校した初等部では、2年生から6年生までの各学年で、アジアを対象に交流学習を実施している。現地の小学生とテレビ会議を活用して、学習活動に取り組んでいる。中等部では、「考える科」（高次思考力を身に付ける教育プログラム）での学習やカナダ研修旅行を経て更に知識を更新し、世界観を広げ、問題意識を高めてくる生徒に対して、高等部ではそれをさらに広げ深める構造的なカリキュラムを提供していく。</p>

ふりがな	こうほうじんかんさいだいがく	かんさいだいがくこうと	指定期間	26～30
学校名	学校法人関西大学 関西大学高等部			

## 平成26年度スーパーグローバルハイスクール 目標設定シート

1. 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標値(28年度)
自主的に社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒数									
a	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	30人
	SGH対象生徒以外:	15人	4人	人	人	人	人	人	人
目標設定の考え方: 課題研究で得た知見を基に、実社会で何らかの提案型活動または社会貢献を実践する生徒の人数									
自主的に留学又は海外研修に行く生徒数									
b	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	144人
	SGH対象生徒以外:	21人	18人	人	人	人	人	人	人
目標設定の考え方: 海外研修行事の見直しにより、1学年全員が何らかの海外研修に参加する態勢を構築する									
将来留学したり、仕事で国際的に活躍したいと考える生徒の割合									
c	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	40%
	SGH対象生徒以外:	10%	15%	%	%	%	%	%	%
目標設定の考え方: 「外部講師特別講義」を全体及び系列別を実施することによって、卒業研究の完成年度に進路視野の拡大を図る									
公的機関から表彰された生徒数、又はグローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における入賞者数									
d	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	3人
	SGH対象生徒以外:	0人	1人	人	人	人	人	人	人
目標設定の考え方: 1, 2年段階のエッセイやレポートから、3年卒業論文の優秀作品による応募へとステップアップを想定									
卒業時における生徒の4技能の総合的な英語力としてCEFRのB1～B2レベルの生徒の割合									
e	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	85%
	SGH対象生徒以外:	40%	50%	%	%	%	%	%	%
目標設定の考え方: 英語ディベートと卒業論文の英文要旨による指導により、アカデミック・ライティングを身につけた生徒層の育成									
(その他本構想における取組の達成目標)									
f	SGH対象生徒:								
	SGH対象生徒以外:								
目標設定の考え方:									

1' 指定4年目以降に検証する成果目標									
		24年度	25年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	目標値(29年度)
国際化に重点を置く大学へ進学する生徒の割合									
a	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	20%
	SGH対象生徒以外:	3%	8%	%	%	%	%	%	%
目標設定の考え方: 関西大学以外への進学者でグローバル30等の大学へ進む生徒の数									
海外大学へ進学する生徒の人数									
b	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	7人
	SGH対象生徒以外:	1人	0人	人	人	人	人	人	人
目標設定の考え方: 専門性の高まりと高い語学力とを兼ね備えた人数									
SGHでの課題研究が大学の専攻分野の選択に影響を与えた生徒の割合									
c	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	50%
	SGH対象生徒以外:	-	-	%	%	%	%	%	%
目標設定の考え方: 研究テーマの設定指導を「外部講師個別指導」によって充実させ、論文執筆過程で副専攻まで生徒に意識させる									
大学在学中に留学又は海外研修に行く卒業生の数									
d	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	28人
	SGH対象生徒以外:	-	-	人	人	人	人	人	人
目標設定の考え方: 海外での活動に対する期待感を醸成し、キャリアプランニングを語学力のアップによってより現実的なものとする									

2. グローバル・リーダーを育成する高校としての活動指標（アウトプット）								
	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標値(28年度)
課題研究に関する国外の研修参加者数								
a	131人	120人	人	人	人	人	人	144人
目標設定の考え方:1学年の全員参加を目指す								
課題研究に関する国内の研修参加者数								
b	256人	267人	人	人	人	人	人	288人
目標設定の考え方:1,2年生での国内フィールドワーク研修先を新規開拓によって充実させ、研修の質の向上を追求する								
課題研究に関する連携を行う海外大学・高校等の数								
c	1校	1校	校	校	校	校	校	5校
目標設定の考え方:中等部との海外交流校を高等部にも拡大させながら、外部機関からの協力を得て新規開拓を図る								
課題研究に関して大学教員及び学生等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
d	15人	15人	人	人	人	人	人	85人
目標設定の考え方:1年2年での系列別講義と個別指導で1系列のべ9人。3年での英文指導と発表会審査でのべ12人。								
課題研究に関して企業又は国際機関等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
e	32人	32人	人	人	人	人	人	48人
目標設定の考え方:国内研修先20ヶ所、海外研修受入先12ヶ所をベースに、系列単位での専門に特化した研修先を開拓する								
グローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における参加者数								
f	0人	0人	人	人	人	人	人	5人
目標設定の考え方:大会での入賞者3名を目標として、高いレベルでの卒業研究優秀者を毎年度5名育成する								
帰国・外国人生徒の受入れ者数(留学生も含む。)								
g	3人	0人	人	人	人	人	人	10人
目標設定の考え方:課題研究に関する海外連携校5校を目標に、1校あたり2名の留学生(短期を含む)を設定								
先進校としての研究発表回数								
h	0回	2回	回	回	回	回	回	3回
目標設定の考え方:卒業研究発表会(予選、本選)を学校関係者に公開し、隔年で研究大会の開催を想定								
外国語によるホームページの整備状況								
○整備されている △一部整備されている ×整備されていない								
i	×	×						○
目標設定の考え方:2年間で完成を目指し、以降は部分修正によるバージョンアップを図る								
(その他構想における取組の具体的指標)								
j								
目標設定の考え方:								

<調査の概要について>

1. 生徒を対象とした調査について

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
全校生徒数(人)	376	397					
SGH対象生徒数							
SGH対象外生徒数							